

# 第8章

## 参考資料

参考資料として、県が兵庫教育大学大学院に派遣している、岩美町立岩美北小学校の河上慎一郎教諭の研究実践の一部を紹介します。





## 2 小学校×中学校のデータの連携

令和5年度より、とっとり学力・学習状況調査活用モデル地域となったことを受け、鳥取県教育委員会のサポートのもと、よりデータを効果的に活用していくための戦略会議（町教委、県教委）やチーム会議（町教委、県教委、学校）を開いたり、岩美町教育研究会研修会（町内小・中学校合同）においてとっとり学力・学習状況調査の理解促進を図ったり、各校における活用方法を検討した。

各校の教頭や教務主任、研究主任等が参加した第2回チーム会議では、学習方略や非認知能力の伸びを見ながら、児童生徒の実態把握だけでなく、「主体的・対話的で深い学びの実施を実現する効果的な授業の在り方」「どのような指導が向社会性に影響しているか」「学力を伸ばした国語科の指導のコツ」等、各校の取組について情報交換を行うことができた。学校・校種間を超えた建設的な話し合いによって、授業改善等、各校それぞれの今後の取組についてはもちろん、9年間を意識した小・中連携の視点も得ることができた。

第5章「岩美町立岩美北小学校の取組」（p.59）に中学校1年生のデータ分析資料が紹介されているが、小学校4年生から中学校3年生までが同じ調査を行うという良さを発揮するためにも、小・中学校間でのデータ連携・共有が今後益々進んでいくと良いと考える。

## 3 データ活用方法の模索を通して

私はこれまで「客観的な根拠を基にした教育」と聞くと、人との温かな関わりより、数値を重視する冷たい教育という否定的なイメージを抱いていた。しかし今回、とっとり学力・学習状況調査をはじめ各調査データの学校現場における効果的な活用方法の模索を通して、多くの方と出会い、様々な教育観に触れることで、今までデータに対して抱いていたイメージが真逆のものとなり、人と人をつなぐ温かなものであると考えるようになった。単に何かしらの良し悪しを判断するためにデータを使うのではなく、児童とのより良い関係作りや、職員同士で指導方法について語り合ったりする材料として用いた時、データは児童、職員はもちろん、家庭、地域をもつなぐ温かなツールとなると思う。

今後も効果的な活用方法を模索し、データを語るのではなく、データを使って多くの人と建設的に語り合える環境を整えていきたい。

~ MEMO ~

## 連絡先

鳥取県教育委員会事務局

小中学校課学びの改革推進室

電話 (0857) - 26 - 7947

ファクシミリ (0857) - 26 - 8170

電子メール [shouchuugakkou@pref.tottori.lg.jp](mailto:shouchuugakkou@pref.tottori.lg.jp)

ホームページ <https://www.pref.tottori.lg.jp/shouchuugakkouka/>

